

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

## 2 中期的目標

## 1. 学力の向上

- (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習状況に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」まで幅広い質の授業を展開
- (2) ICT機器の活用、研究授業等により教員の授業改革を進め、学力の3要素（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）の育成を図る。
- (3) 学力生活実態調査を活用し、3年間を見通した学力および学習習慣の育成を図る。
  - ※ 学校教育自己診断：「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答75%以上（H30:73.0/R1:78.7/R2:81.9%）
  - ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答85%以上を維持（H30:91.3/R1:93.1/R2:96.0%）
  - ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB3以上を維持（H30:B3/R1:B3/R2:B3）

## 2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化、国際交流活動の推進
- (2) ボランティアや地域と連携した事業への積極的な参画
  - ※ 部活動への参加率70%以上を維持、活動実績の向上（H30:69.0/R1:71.5/R2:69.6%）
  - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答30%以上（H30:33.4/R1:37.3/R2:%）

## 3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 「高校生活支援カード」や「安心・安全アンケート」等により生徒情報を収集し、教育相談を積極的に行う。
- (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
- (3) 外部機関と連携を図り、交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行う。
  - ※ 学校教育自己診断：「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答65%以上（H30:62.0/R1:66.0/R2:66.9%）
  - ※ 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答80%以上（H30:78.8/R1:81.5/R2:88.3%）
  - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答70%以上を維持（H30:76.2/R1:82.8/R2:85.7%）

## 4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させ、「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開する。
- (2) 自らの進路目標達成に向け、主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導を行う。
- (3) 社会の情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
- (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。
- (5) 進学実績の向上を強力に進める。
  - ※ 英語運用能力テストでCEFR A2レベル以上相当資格取得者40名以上在籍（H30:37/R1:57/R2:未実施）
  - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答40%以上（H30:44.2/R1:52.0/R2:45.9%）
  - ※ 共生推進教室の卒業時の就職率100%（H30:100/R1:100/R2:100%）
  - ※ 中堅上位以上大学（国公立・関関同立・産近甲龍など）レベルの現浪合格数170以上を維持（H29:172/H30:172/R1:168/R2:177）
  - ※ 中堅大学（摂神追桃など）レベルの現浪合格数240以上を維持（H29:236/H30:227/R1:242/R2:205）

## 5. 広報活動の充実

- (1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会をより一層充実させる。
- (2) インターネットを活用し、本校の教育活動の積極的な発信を図る。
  - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答85%以上（H30:84.5/R1:86.9/R2:88.8%）
  - ※ 中学3年生対象第1回進路希望調査において希望倍率2.0以上（H30:2.44/R1:2.37/R2:2.46倍）

## 6. 職員の時間外勤務時間の縮減

- (1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。
- (2) 特定の職員に業務が集中しないよう業務分担と業務サポートを進める。
  - ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を30時間未満に維持する。（H30:28h43m/R1:28h09m/R2:28h18m）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学力の向上	(1) ICT 機器やその他の教材を有効に活用できるように教員の授業力向上を図る (2) 学力生活実態調査を活用し学力・学習習慣の定着を図る	(1) PCの生徒1人1台配布の初年度を迎え、オンライン委員会を中核にオンライン学習の準備や教材開発を進める他、教科内での授業スキルの共有により「わかる授業」のための授業計画を進める (2) 学力生活実態調査・全国模試を全員受験とし、結果データを分析し、教科指導、個人・保護者面談等に有効に活用する	(1) 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」90%以上 [96.0%] 教員のICT活用率65%以上 [64.2%] (2) 学校自己診断「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上 [81.9%]  学力生活実態調査の学力結果(GTZ)をB3以上 [B3]	
2 自主的な活動の推進	(1) 部活動の活性化 (2) 学校行事の見直し (3) 地域との連携事業の推進	(1) 学校説明会におけるクラブ見学や新入生の体験入部など通して、部活動の活性化を継続する (2) 次年度の体育専門コース閉講に伴い体育祭の企画・運営を生徒会へ円滑に移行する体育祭や文化祭等の行事が実施できるよう感染対策を講じる (3) 感染予防策を講じながら、EXP02025 共創チャレンジなど地域団体等と連携した活動や部活動の出演をはじめとする地域イベントへの参加協力を行う	(1) 新入生対象の部活紹介・体験入部期間の設定などを実施 入部率70%以上 [69.6%] (2) 次年度から体育祭担当となる生徒会部の所属教員数を増員 [現在6名] 手指消毒、マスク着用、身体接触のある種目の削除、ソーシャルディスタンスの確保、必要に応じて無観客による実施などの感染対策を講じる (3) 地域協力5件以上	
3 安全で安心な学校作り	(1) 教育相談体制の充実 (2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちの涵養 (3) 交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行い、規範意識を涵養	(1) 日々の登校指導での声掛けや見守り、部活指導などにより、相談しやすい生徒と教員の関係づくりをすすめる 教育相談委員会を機能させて職員間の情報共有を進め、生徒の見守りと支援を継続させる (2) 人権HRや日々の教育活動をととして生徒の人権意識の涵養に努めるとともに、職員研修等により職員の人権意識および人権侵害事象への対応について見識を深める いじめ対策委員会を有効に機能させ、生徒や保護者からの訴えに迅速に対応する (3) 遅刻指導、制服・頭髪指導、交通安全講習会を行う 教科「情報」授業と人権委員会が連携し情報モラルやSNSの利用方法について学習を進める	(1) 学校教育自己診断「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」65%以上 [66.9%] (2) 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答80%以上 [88.3%] 人権に関する職員研修を年1回以上実施する [2回] (3) 年間遅刻総数を2000件未満 [1722件] 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」75%以上 [85.7%]	
4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	(1) 「自己管理」能力の育成や「キャリア教育」を推進する (2) 主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導 (3) 共生教育を推進し、互いの人間性・社会性をさせる (4) 個々の生徒の状況やニーズを踏まえ、進路実現をサポートする	(1) 「夢設計手帳」を継続使用する 1年次に自分の将来を語る1分間スピーチ、プレゼン大会を実施する (2) 1年次より進路に向けた講演、情報を提供するとともに、学力生活実態調査や全国模試の結果を進路指導や家庭学習の指導に活用する (3) 共生推進教室の生徒と他の生徒と一緒に活動できる事業の創設を進める (4) 分野別進路指導を充実させる。土曜講習・長期休業中の進学講習を実施する。 学力生活実態調査、全国模試で学力・学習実態把握、弱点克服を図る。	(1) 「夢設計手帳」にスケジュール管理とキャリアパスポートの機能を持たせる 1年の発表大会の継続実施 (2) 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」80%以上を維持する [85.6%] (3) 地域と連携するなど、新たな共同事業を立ち上げる(1件以上) (4) 中堅上位以上大学レベルの現浪合格数170以上を維持 [177] 中堅大学レベルの現浪合格数240以上を維持 [205] 看護系20人以上、公務員等10人以上の合格 [看41/公15]	
5 広報活動の充実	(1) 地元中学校との連携、学校説明会のより一層の充実 (2) インターネットを活用した教育活動の積極的な情報発信	(1) 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する 学校案内の刷新、感染対策を講じた学校説明会を実施する (2) 学校ホームページの更新、校長ブログ、及び久米田メールを活用し、生徒・保護者に必要な情報をタイムリーに発信する	(1) 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.1以上 [2.46] (2) 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者85%以上 [88.8%]	
6 時間の縮減	(1) 「部活動の方針」を遵守するとともに、最終退庁時刻の励行を進める (2) 業務分担の推進	(1) 月間部活動計画の校内公開、校内放送や顧問への啓発による部活終了時刻の徹底を図る (2) 限られたマンパワーで効率的かつ効果的に校務を遂行できるよう偏りのないマンパワーの振り分けを行う	(1)(2) 職員の月平均時間外勤務時間数を年間30h未満 [28h18m] (2) 校務分掌定員見直しの実施	